

2020年10月10日(土)

ショウドウツバメのねぐら入り観察会

南の越冬地に渡る途中のショウドウツバメは、公園のヨシ原を、夜を過ごす「ねぐら」として利用し、夕方になるとたくさん集まってきて、日没後にねぐら入りします。ただしその時期や数は年によって違いがあり、当たり外れがあるのが特徴です。今年は台風の接近により風が強いなか、観察会を行いました。



ガイダンスは観察ホールで行いました。ねぐら入りするのはショウドウツバメだけではなく、ツバメも混じっています。



高速で飛ぶツバメ類は姿の区別が難しいので、鳴き声を聞いて違いを覚えます。ショウドウツバメは濁って、ツバメは澄んでいるのです。



最後に山口県で見られる他のツバメ科の説明もします。この時期は上記2種の他にコシアカツバメとイワツバメも見られる可能性があります。



ガイダンス後はしばらく館内で過ごします。西の彼方には既にツバメ類がたくさん群れていて、公園の上空にも一部飛んでいました。



頃合いを見て野外へ。移動中にもツバメ類が群飛する様子が見られ、期待が高まります。



ヨシ原にはスズメもねぐら入りますが、時間が早く、どんどん群が飛んできます。



干潟に目を向けると、サギ類も群れています。こちらは杭の上がねぐらです。



風が強めでしたが天気は最高で、観察場所からは美しい夕焼けが見られました。



当日は強風の影響か、ツバメ類が集まるのが早く、日没前から上空を旋回していました。



初めは群があまりまとまっています。ショウドウツバメが圧倒的に多く、ツバメはわずかです。



次第に数を増し、クライマックスへ。群が分かれ、合体し、上空いっぱいになるショウドウツバメたちに大興奮！見る方向が様々なのが状況を物語っています。



無数のショウドウツバメたちが渦を巻くように乱舞する様子は、圧巻の一言です。



ねぐら入りは、群の一部が突然ばらばらと落ちるようにヨシ原に吸い込まれていきます。



ヨシ原すれすれに移動した群は、すんなりとヨシにはとまりません。しばらくすれすれを旋回し、時には目の前を横切って、ヨシ原を飛び出すことも。上空にはまだ群が残っていて、上と下どちらも楽しめます。



約3000羽のショウドウツバメの群が、強風に逆らって低くゆっくり飛び回る様子が何度も見られて大満足でした。ねぐら入りできる貴重なヨシ原が残っているからこそです。